

モモの秋季摘葉処理は樹勢低下を招くおそれがある

福島県農業総合センター 果樹研究所 栽培科

1 部門名

果樹—モモ—栽培

2 担当者

安達義輝

3 要旨

モモの秋季摘葉処理がモモせん孔細菌病の秋季感染及び樹勢に及ぼす影響を調査した。摘葉処理によって貯蔵養分量が減少し、連年処理では樹勢低下が認められたが、処理を一年中断することで貯蔵養分量の回復が可能であった。

(1) 5～7年生「あかつき」について、2015年から2017年にかけて毎年、秋期防除実施直前に人工的に全摘葉し、処理当日に4-12式ボルドー液を散布した。2018年秋季は処理を行わなかった。

(2) 処理翌年の新梢生長を調査した結果、葉面積が減少し、葉色が一時的に薄くなる傾向が認められた(表1)。

(3) 処理区間の収量や果実品質には影響が認められなかった(図1)。

(4) 処理により貯蔵養分蓄積期間が短縮され、当年の貯蔵養分量が減少した。処理を一年中断することで回復が可能であった(表2)。

(5) 処理翌年のモモせん孔細菌病の発病抑制効果は、少発条件下の「あかつき」では判然としなかった。

(6) 手作業による処理時間は、6年生の若木において10a換算で約120時間であった。

表1 秋季摘葉処理による翌年の新梢葉への影響 (2016年)

	葉面積	葉身長
	cm ²	cm
摘葉	43.4	16.7
無処理	47.3	17.4
F値	14.6 *	4.83 △

注) *, △は危険率5%、10%水準で有意差あり。

表2 秋季摘葉処理による貯蔵養分蓄積への影響

	2015年	2016年	2017年	2018年	コンドリノ陽性物質 (貯蔵養分)		
	処理日	処理日	処理日	落葉日	2016年	2017年	2018年
摘葉	9月28日 (60)	9月30日 (64)	10月4日 (61)	11月11日 (104)	5.6	1.5	13.3
無処理	10月24日 (86)	11月1日 (96)	10月23日 (80)	11月11日 (104)	8.4	3.1	14.7
F値					3.76 ns	31.8 **	0.70 ns

注1) 括弧内は収穫後から摘葉(落葉)までの日数。2018年は全て無処理。

注2) **は危険率1%水準で有意差があることを示す。

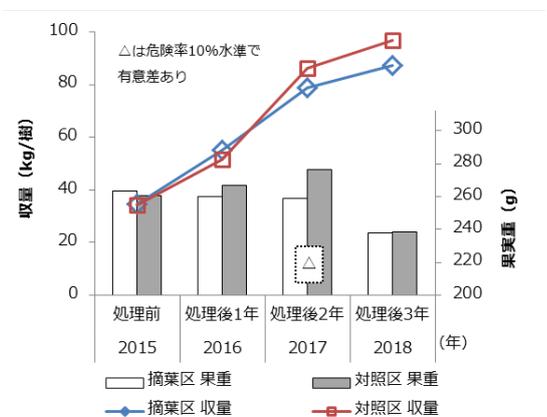


図1 秋季摘葉処理による果実生産への影響

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成28年度～30年度
- (2) 研究課題名 果樹病害虫の防除法改善に関する試験
- (3) 参考となる成果の区分 (指導参考)

5 主な参考文献・資料

- (1) 福島県実用化技術情報「モモ樹の貯蔵養分簡易診断法の開発」(星ら, 2004)

(活用した事業名: 農研機構生研支援センター 革新的技術開発・緊急展開事業(うち地域戦略プロジェクト))